

## もくじ

### 第1章 生活風景に見る角田の人たち ..... 3



カメラマンの撮影（昭和初期）

### 第2章 角田の通りや町かどあれこれ ... 41

### 第3章 昭和の戦争と角田の人々 ..... 81

### 第4章 交通で後れをとった角田のその後 ..... 99

### 第5章 祭りを楽しむ角田の人々 ..... 123



七五三のお祝い 天神町（昭和38年）

## 第1章

### 生活風景に見る角田の人たち

#### 第1節 くったくのない子どもたち ..... 4

#### 第2節 大きく変わった人々の服装 ..... 11

#### 第3節 昔の娯楽 ..... 19

#### 第4節 昔の車たち～レトロな姿にうっとり ..... 26

#### 第5節 昔の葬儀風景 ..... 28

#### 第6節 なりわい 昔の生業 ..... 30

#### 第7節 今では見られないその他の日常風景 ..... 38



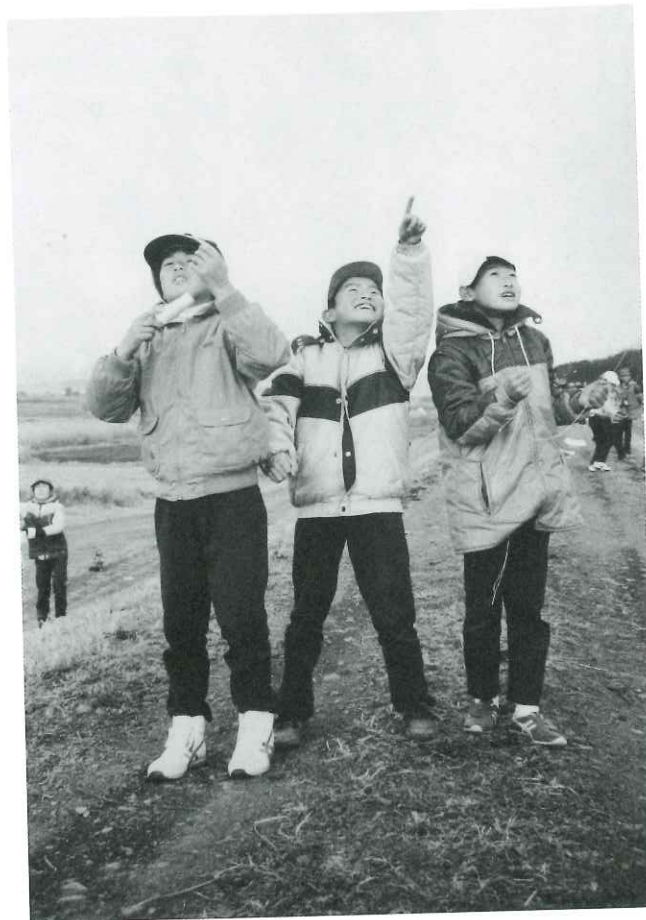
1歳児の笑顔（昭和6年）



このページの4枚の写真は、「広報かくだ」の表紙に使われたものです。表紙を飾っただけあってどの写真も子どもたちの良い表情をとらえています。



▲角田保育所 プール開き (昭和62年8月号)



▲東根小学校 たこあげ大会 (昭和60年2月号)



▲藤尾小学校 一日入学 (昭和60年3月号)



▲北郷児童館 雪遊び (昭和61年3月号)

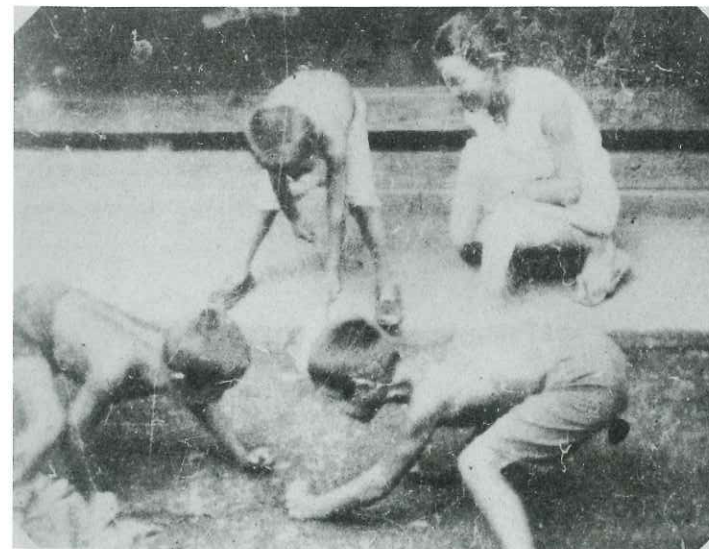
## ■遊びに興きょうじる子どもたち

今のようにテレビゲームや携帯電話もなく、塾やスポーツ少年団も今ほど盛んではなかった昭和時代。子どもたちは滅多に車が通らない道路や原っぱで暗くなるまで集団遊びをしていました。ここでは、遊びに熱中する子どもたちの姿を見ていきます。



▲紙芝居は娯楽の王様 (昭和29年)

小学生が下校する頃、どこからともなく現れる紙芝居屋のおじさん。拍子木や太鼓の音が聞こえたら、子どもたちは喜び勇んでかけつけました。写真は、昭和29年の天神社境内。「お母さん危ないよ。子どもを落とさないでよ。」と言いたくなる場面も見えておもしろいですね。娯楽の王様紙芝居も40年代になると急速に姿を消していきました。



▲相撲遊び (昭和30年代)



▲縄とび遊び (昭和20年代)





▲東町の町なみ (昭和30年代 地図A②)

42ページの写真よりもう少し北に行ったところ。未舗装なので42ページの写真と同世代のものと思われます。突き当たりの建物から本町になります。藩政時代には「大性院」という真言宗のお寺がありました。明治に廃寺になり、「仙台法務局角田出張所」が置かれた後、「角田カトリック幼稚園」になって現在に至っています。



▲仙台法務局角田出張所 (昭和36年)

## ■本町



▶本町通り (昭和55年 地図A④)

本町通りの東側で、土蔵造りの店舗 (肉屋、今は郷土資料館の門) と保健所の倉庫蔵 (今は「本町パーク」) が写っています。「角田三町」は「蔵のまち」だったのです。



◀本町通り (昭和45年 地図A③)

東町からクランクの道を過ぎると本町通りになります。本町、仲町、天神町は藩政時代から「角田三町」と言われていました。商人の町で、蔵造りの店舗が並んでいました。その名残は今ではほんの一部でしか見ることはできませんが昭和の頃にはまだかなりの数が残っていました。写真は、本町通りの西側で、土蔵造りの店舗と板塀をめぐらした住宅が写っています。

## ■仲町



▲T字路だった東仲町十字路 (昭和39年 地図A⑤)

本町から仲町に曲がる道は現在十字路ですが、昔は写真のようなT字路でした。正面には立派な蔵が、右手に「ゆやす」の看板が、左手には国鉄バスの角田営業所が見えます。近くには仙南交通の角田駅もありました。この頃から賑わってはいましたが、昭和43年にここが十字路になると、角田の中心街と言っていいほどの活況を呈します。



◀東仲町十字路界隈の賑わい (昭和63年 地図A⑥)

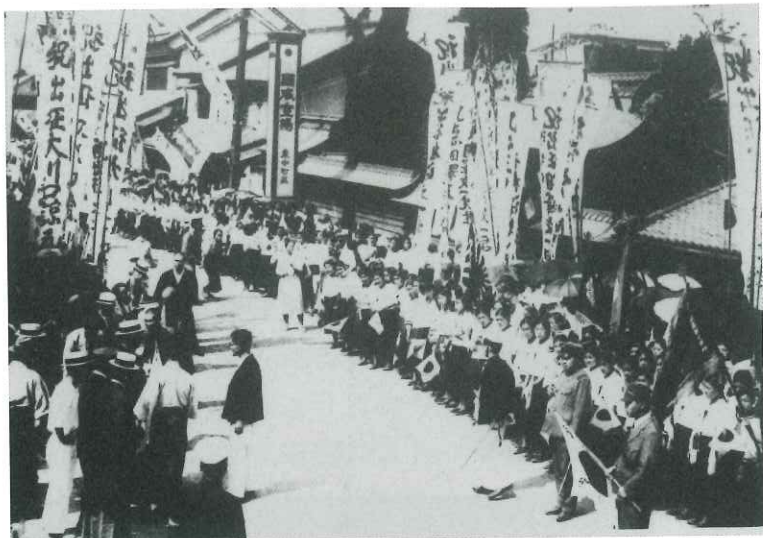
写真の右奥に3階建ての「ファミリーデパートゆやす」が、手前には1階が「ヒシダイインテリアプラザ」、2階がレストラン「味の街」の店舗が写っています。



◀東仲町十字路界隈の賑わい (昭和57年)

東仲町界隈は、休みの日には写真のように人でごった返していました。「ゆやす」は市内で唯一エスカレーターのあるデパートとしても有名でした。この頃のこの地域で買い物をしてみたいと思いませんか？この頃は、心がワクワクする地域だったのです。





◀ 出征兵士の見送り（昭和10年代）  
 出征兵士の見送りは地区によってやり方が違っていました。角田の町なかでは、東仲町通りの前列に子どもが並び、その後ろに婦人会の人が立ちました。兵士たちは敬礼をしながら歩き、仲町交差点でUターンし、省営バス（後の国鉄バス）の所で仙台行きバスに乗りました。

▶ 声なき凱旋（昭和14年）  
 戦死者の遺骨の帰還はひっそりと行われましたが、写真は、旧制角田中学校関係者だったので多くの学生が出迎えています。



第2節 銃後の生活



◀ 慰問袋の発送（昭和17年）  
 銃後とは、戦場の後方、つまり直接戦闘に参加していない一般国民を指します。写真は、その人たちが慰問袋を発送する様子です。袋の中には、千人針、家族の写真、手紙、手作りの菓子、下着、靴下などを入れました。

▶ 集まって千人針を縫う人々

（昭和10年代）  
 千人針とは腹巻きにした弾よけのお守りで、赤い木綿の糸で千個の玉を縫い付けたものです。非科学的なおまじないにもみんな真剣に取り組んでいました。



▲ 金属回収 天神町（昭和10年代）  
 ◀ 金属回収 藤尾村（昭和18年）  
 当初任意であった金属類の供出は、昭和16年8月より強制回収となりました。鍋、釜、各種うつわをはじめ、学校の二宮金次郎像、お寺の梵鐘も供出されました。上の写真は、写真を撮る人が冗談でも言ったのでしょうか、屈託のない笑顔が印象的です。







▲国鉄バスターミナル（昭和47年）

昭和47年、東仲町の営業所と車庫を壊し、写真のようなバスターミナルをつくりました。写真には、待合室とバス乗り場が写っています。営業所と車庫は大坊地区に移転。本町にあった角田駅は「生活センター」（80ページ）に替わります。

さて、昭和も終わり頃になると、バスを利用する人が少なくなり、平成10年頃にはバスターミナルと言うよりは単なる停留所の待合室のようになりました。大坊地区の営業所も平成13年には角田から撤退します。



▲国鉄バスターミナル（昭和51年）

### ■仙南交通→宮城交通



▲仙南交通角田営業所（昭和30年代）

国鉄バスとともに角田の人たちの足として活躍したのが仙南交通です。本社は大河原にあり、本町には角田営業所がありました。国鉄バスの道を挟んだ東側にあり、この近辺はバス利用者で大変賑わっていました。

仙南交通の歴史は、大正5年の城南軌道株式会社までさかのぼります。その後、合併を繰り返し、昭和18年に仙南交通自動車株式会社になりました。



▲宮城交通角田営業所（昭和55年頃）

▶宮城交通東根線廃止（昭和59年）

仙南交通は、常に国鉄バスと競争する形で歩まざるを得なかったため、経営は当初から苦しいものがありました。そのため、昭和45年、宮城バス、宮城中央バス、仙南交通の3社が合併し、宮城交通株式会社を設立しました。

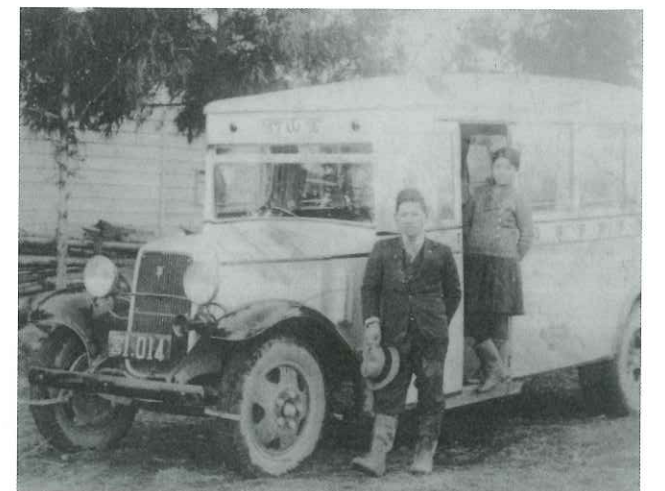
それに伴い、「仙南交通角田営業所」は「宮城交通角田営業所」と名を変えます。上の写真には、「宮交角田ターミナルショップ」「宮城交通トラベル」の看板が見えます。

しかし、国鉄バス同様バス需要の減少から、平成元年頃には角田から営業所を撤退しました。



▲仙南自動車株式会社のバス（昭和10年頃）▲

前ページに、大正5年にできた城南軌道株式会社が合併を繰り返して仙南交通自動車株式会社をつくったということを書きましたが、昭和14年に買収されたバス会社が角田を走っていました。それが、「仙南自動車株式会社」です。角田を經由し、大河原－浜吉田間をつないでいたそうです。左上の写真には「仙南自動車株式会社」の看板が写っていますし、右上の写真には「金山行」の字が見えます。この時代のバスや運転手、車掌らしき人も写っているので大変貴重な写真です。





## 第5節 かくだふるさと夏まつり

現在角田で一番大きな祭りと言えば令和3年から始まった「かくだ傘宇姫夏まつり」ですが、これは昭和55年に始まった「かくだふるさと夏まつり」が形を変えて引き継がれたものです。七夕飾りに彩られた市内の中心商店街では、歩行者天国のもとパレードやライブやイベントが繰り広げられ多くの人で賑わいました。ここでは、祭りが始まった頃の「かくだふるさと夏まつり」を見ていきます。



◀角田音頭パレード（昭和57年）

昭和の頃のパレードの花形と言えば角田音頭パレードでした。少ない年でも300人（昭和56年）、多い年では520人（昭和62年）（「広報かくだ」より）の踊り手たちが、写真のように道いっぱいに広がって優雅に踊りを披露しました。

▼角田小学校バトンガールと鼓笛隊のパレード（昭和60年）



◀復活した「角田祭ばやし」の山車も参加（昭和61年）

藩政時代、天神社の祭りでは数多くの山車がお囃子とともに町なかを練り歩いていました。この山車とお囃子は昭和初期まで続いていたのですが、その後途絶えてしまいます。これを復活させたのが昭和50年代。そして、昭和60年頃には夏祭りにも参加しました。この「角田祭ばやし」は現在も続いており、角田市から無形文化財に指定されています。



「かくだふるさと夏まつり」では工夫をこらしたイベントやステージショー（昭和62年の例＝縁台将棋大会、写真コンテスト、おまつり広場…丸太引き、輪投げ）も開催されました。これらの創意工夫のかがりがあり、多い年で3万9千人（昭和59年）（「広報かくだ」より）の人出を数えました。



▲ステージショー（昭和62年）



▲ステージに見入る観客（昭和60年）



▲やどかり釣り（昭和62年）



▲工作コーナー（昭和62年）



▲金魚すくい（昭和56年）



▲通りに飾られた七夕飾り（昭和58年）